

高崎哲郎

印旛沼堀割物語

江戸・天保期の印旛沼堀割普請始末

(いんばぬまほりわりものがたり)

江戸末期の天保年間、老中水野忠邦は利根川―印旛沼―江戸湾をつなぐ運河開削を計画した。財政難に陥った幕府は全国5つの藩（庄内藩、貝淵藩、沼津藩、鳥取藩、秋月藩）に開削工事の御手伝普請を命じた。酷暑の中で続けられた掘削作業は病人が続出し死者も相次いだ。工事から3か月後、幕府は工事の続行は不可能と判断し中止を命じた。水野は老中職を罷免された。苛酷な現場労働と御手伝普請を命じられた5藩が陥った財政危機を、多くの史料をもとに描き出す。

本書は「水とともに」（水資源機構月刊誌）に10回にわたって連載された原稿を加筆訂正したものである。



5月末 発売

高崎哲郎著
いんばぬまほりものがたり
印旛沼堀割物語
江戸・天保期の印旛沼堀割普請始末



ふるさと文庫 198 / 印旛沼堀割物語
斎書房出版 / 定価：本体 1300 円(税別)



斎書房出版

印旛沼堀割物語 江戸・天保期の印旛沼堀割普請始末 高崎哲郎著 斎書房 198



新書版・236ページ 1365円(税込価格)
斎(ろん)書房:千葉県流山市流山2-296-5
電話04-7158-0035